

シンポジウム 1

「消化管癌に対する臓器・機能温存治療の最前線」

司会 村上 和成（大分大学消化器内科）

森田 勝（九州がんセンター消化管外科）

消化管癌の治療後には、消化・吸収障害のほか、嚥下・発声、食物貯留、排尿・排泄などの機能障害が発生する。そのため機能温存手術のみならず、臓器温存にむけた様々な工夫がなされている。例えば、食道癌の根治的 CRT のほか、近年、直腸癌に対する TNT が注目されている。また、内視鏡的切除では ESD 関連の高度技術、外科・内科合同治療、AI を組み合わせたアプローチなどがある。臓器・機能温存治療の工夫、最新の知見につきご発表いただきたい。